

九州地区肢体不自由特別支援学校長 様
九州地区肢体不自由特別支援学校 PTA 会長 様
九州地区肢体不自由特別支援学校 学校委員 様

第 6 3 回九州地区肢体不自由教育研究大会福岡大会
実 行 委 員 長 今 井 有 子
(北九州市立八幡西特別支援学校長)

第 6 3 回九州地区肢体不自由教育研究大会福岡大会の開催について (二次案内)

盛夏の候 貴職におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より特別支援教育の推進に当たり、御支援と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、九州地区肢体不自由教育研究協議会では、この度、福岡県において第 6 3 回九州地区肢体不自由教育研究大会を別紙のとおり開催いたします。

つきましては、本大会の開催を御案内申し上げますとともに、公務御多用とは存じますが、多数御参加くださいますようお願い申し上げます。

記

1 添付書類

- (1) 福岡大会開催要項 (二次案内)
- (2) 分科会発表概要及びポスター発表について
- (3) 大会会場地図、交通案内

※大会本申請 (申込方法等) につきましては、8 月下旬に文書で御案内予定です。
北九州市立八幡西特別支援学校のホームページにも掲載いたします。

【連絡先】	北九州市立八幡西特別支援学校内 第 6 3 回九肢研福岡大会事務局 事務局長 (教頭) 金田 司 住 所 〒807-0075 福岡県北九州市八幡西区下上津役四丁目 8 番 2 号 T E L 0 9 3 - 6 1 2 - 2 2 1 0 F A X 0 9 3 - 6 1 2 - 2 2 7 1 E-mail yahatanishi-s@kita9.ed.jp
--------------	---

第63回九州地区肢体不自由教育研究大会福岡大会要項

1 趣 旨

平成30年度に幼稚部から実施が始まり、令和6年度に全面実施された学習指導要領においては、社会に開かれた教育課程の実現、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導改善、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立、障害のある子供たちの学びの場の柔軟な選択を踏まえた小中高等学校の教育課程との連続性、障害の重度・重複化、多様化への対応と卒業後の自立と社会参加に向けた充実などが求められている。

また、令和3年「令和の『日本型教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」においては、GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備など、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図ることや、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することなどが求められている。

さらに、同年、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職を防止し、もって安心して子どもを生み、育てることができる社会を実現するため、教職員と医療的ケア看護職員等が連携し、組織的に医療的ケアを行うこと、医療的ケア児が、保護者の付添いがないくても適切な医療的ケアその他の支援を受けられるようにするための体制整備を行うことなどが求められている。

本研究大会では、新しい時代の肢体不自由教育について、PTAを含む各学校の先進的で参考となる実践を出し合い、教育活動の在り方について協議を深めるとともに、これからの肢体不自由教育の在り方や展望について語り合い、各校の今後の教育指針の一助となることを期待する。

2 福岡大会の基本テーマ

「新しい時代の肢体不自由教育のさらなる充実・発展を考える」

3 主 催

九州地区肢体不自由教育研究協議会
九州地区特別支援学校肢体不自由教育校長会
九州地区肢体不自由特別支援学校PTA連合会
全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

4 後 援

福岡県教育委員会 北九州市教育委員会 福岡市教育委員会
福岡県特別支援学校校長会 福岡県肢体不自由児者福祉連合会
公益財団法人日本教育公務員弘済会福岡支部
全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

5 担当校

北九州市立八幡西特別支援学校	〒807-0075 北九州市八幡西区下上津役 4-8-2 TEL: 093-612-2210 FAX: 093-612-2271	R8 代表校 大会事務局 学校公開会場
北九州市立小倉総合特別支援学校	〒802-0803 北九州市小倉南区春ヶ丘 10-3 TEL: 093-921-0075 FAX: 093-921-0190	協力校
福岡県立直方特別支援学校	〒822-0007 福岡県直方市下境 410-2 TEL: 0949-24-5571 FAX: 0949-24-5508	協力校
福岡市立南福岡特別支援学校	〒812-0857 福岡市博多区西月隈 5-6-1 TEL: 092-581-2242 FAX: 092-581-2988	協力校
福岡市立今津特別支援学校	〒819-0165 福岡市西区今津 5413 番地 TEL: 092-806-8181 FAX: 092-806-8180	協力校

6 期 日

令和 8 年 10 月 28 日(水)~30 日(金)

7 参加者

九州地区肢体不自由特別支援学校教職員及び保護者等
県内特別支援教育担当教職員及び関係者等

8 記念講演

講師 一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡 社会福祉士 中島 寧音 氏

演題 「誰もが輝ける社会を目指して」

講師 プロ舞台パフォーマー・THEMIX 総合演出プロデューサー 森 裕生 氏

演題 「多様生の可能性」

9 講話

講師 文部科学省 初等中等教育局 視学官 菅野 和彦 氏

演題 「学習指導要領の改訂に向けた動向と肢体不自由教育の進展」

10 会場

北九州市ウェルとばた

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1番6号

TEL 093-871-7200

北九州市立戸畑生涯学習センター

〒804-0061 北九州市戸畑区中本町7番20号

TEL 093-882-4281

北九州市立八幡西特別支援学校

〒807-0075 北九州市八幡西区下上津役4丁目8番2号

TEL 093-612-2210

11 日程

【第1日目】10月28日（水）：ウェルとばた、戸畑生涯学習センター（分科会1・5・7）

13:30 ~ 14:00	14:00 ~ 14:50	15:00 ~ 15:40	16:00 ~ 17:00
受付	PTA 連合会	校長会・PTA 会長会	分科会打合せ

【第2日目】10月29日（木）：ウェルとばた、戸畑生涯学習センター（分科会1・5・7）

9:30 ~ 10:00	10:00 ~ 10:30	10:30 ~ 12:00	12:00 ~ 13:00	13:00 ~ 15:45	16:00 ~ 17:00
受付	開会行事	記念講演	移動、休憩	分科会（1～7）	ポスター発表

※開会行事・記念講演・第6分科会は、ライブ配信も行う。

【第3日目】10月30日（金）：北九州市立八幡西特別支援学校

9:00 ~ 9:30	9:30 ~ 10:30	10:40 ~ 11:50	12:00 ~ 12:15	12:15 ~ 12:30
受付	講話・PTA 座談会	学校公開・教材展示	閉会行事	給食試食会

※講話のみ、ライブ配信も行う。

12 分科会

分科会	内容
第1分科会	教育課程・授業改善
第2分科会	学習指導
第3分科会	自立活動
第4分科会	情報教育・支援機器の活用
第5分科会	キャリア教育・進路指導
第6分科会	PTA・地域との連携
第7分科会	生活指導・寄宿舎教育

13 参加費等

大会参加費： 参集 4,000円 オンラインのみ 3,000円

2日目 弁当代：1,500円

3日目 送迎バス（往復）：1,000円

※今後の様々な社会情勢、新たな感染症の状況によっては、日程や開催方法が変更になることもあります。

令和8年度
第63回九州地区肢体不自由教育研究大会福岡大会
(九州地区肢体不自由教育研究協議会)

分科会発表概要及びポスター発表について

第63回九肢研福岡大会実行委員会事務局

－ 第Ⅰ分科会 －

【Ⅰ-A】

学校名	熊本県立松橋東支援学校	
所属（学部等）	幼稚部	
役職名等	教諭	
提案者ふりがな	ながの えり	
提案者氏名	永野 恵理	

1 発表タイトル

本校幼稚部における授業改善の取組と課題～義務教育への架け橋となる授業づくり～

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
合わせた指導と自立活動	幼稚部	3・4・5 歳児クラス	準ずる教育（領域を合わせた指導及び自立活動）

3 提案（発表）内容の概要

本校舎（幼稚部、小・中学部）は、併設している熊本県こども総合療育センターに入所している幼児児童生徒が在籍している。幼稚部は幼稚園に準じた教育課程で、3歳児から5歳児まで一緒に学習活動に取り組んでいる。幼稚部卒業後、小・中学部への進学を予定している幼児や、年度途中に地元の保育園から手術のために転入し数カ月間在籍する幼児、療育機関と本校を併用する幼児等、取り巻く状況は様々である。

幼稚部の教育目標は、幼稚部教育要領において「幼稚園に準じた教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立を図るために必要な知識技能を授ける」と述べられている。本校幼稚部でも、「領域を合わせた指導」と「自立活動」の授業を、年間計画に沿って実践している。さらに、授業評価から改善へ、個に応じた授業作りを目指し、次の授業や次年度への教育課程編成に向けて取り組んでいる。本分科会ではこれらのことを話題提供し、意見交換の場としたい。

【Ⅰ-B】

学校名	佐賀県立うれしの特別支援学校	
所属（学部等）	中学部	
役職名等	教諭	
提案者ふりがな	みやじま せいご	
提案者氏名	宮島 誠吾	

1 発表タイトル

教育課程が変わり、Aが動き出した — 「できる」が広がる学びの物語

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
自立活動	中	2	知的障害教育課程を代替する教育課程

3 提案（発表）内容の概要

生徒Aは、「言葉で人とコミュニケーションを楽しみたい」「電動車椅子を自分で操作して行きたい場所へ移動したい」という明確な目標をもっているが、四肢麻痺と筋緊張があり、車椅子で生活しており、移動や排泄など日常生活の中で介助を要する。

本校中学部の教育課程が本人の現状に合っていた。Aの思いを学びの中心に置きながら、日々の活動を組み立てていった。コミュニケーションの面では、相手に届く声を意識できるよう、ゆっくり音読する時間をつくった。移動の力を伸ばすためには左手の操作性の向上や姿勢の安定が大切だと考え、左手を使って操作する活動を徐々に増やしていった。また、Aが「ひとりでできた!」と感じられる場面を積み重ねられるよう、できたことを一緒に喜びながら声をかけることを大事にした。

その結果、Aの発語は聞き取りやすくなり、自己肯定感が高まった。さらに訓練での電動車椅子操作が上達し、本人も周囲もその成長を実感している。

今回の提案では、Aの小学部から中学部への教育課程の変遷、そして知的通常課程の生徒との関わりの中で見られた変容について報告する。

－ 第2分科会 －

【2-A】

学校名	宮崎県立延岡しろやま支援学校		
所属（学部等）	肢体不自由教育部門	小学部	
役職名等	教諭		
提案者ふりがな	くろき ひろこ		
提案者氏名	黒木 弘子		

1 発表タイトル

算数の指導における個に応じた教材の工夫

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
算数	小学部	3、4年生	自立活動を主とする教育課程

3 提案（発表）内容の概要

本校肢体不自由教育部門小学部では、年々重度重複化が進む中で、一人一人に応じた算数指導の在り方を模索している。

昨年度は、一斉授業の中で、個別の学習の時間を設定したり、一人一人の教科や身体の実態に応じた教材を工夫したりしてきた。一人一人に応じた教材を活用し、繰り返し授業を行っていく中で、「数」というものに触れる機会が多くなり、見比べる力や物の有無が理解できるようになってきている。

本提案では、一人一人に応じた教材の工夫を行うことで児童がどのように変容していったかを報告したい。

【2-B】

学校名	長崎県立諫早特別支援学校		
所属（学部等）	小学部		
役職名等	教諭		
提案者ふりがな	かねこ ひでひこ		
提案者氏名	金子 英彦		

1 発表タイトル

子供たちの主体的な学びを引き出すための授業改善 ～社会科の授業を通じた試み～

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
社会科	小学部	6年	下学年代替

3 提案（発表）内容の概要

本校の教育課程Ⅱ課程（下学年代替）で学習する小学部6年生2名の社会科実践を取り上げる。

児童A、Bは語彙の少なさや、言葉の意味を正しく理解していないところはあるが、自分なりに思いや考えを伝えることができています。しかし、社会科の学習場面では、内容によっては関心を示さないことも多く、見たり聞いたりしたことを断片的に覚えてはいるが、内容の理解には至らない。また、教師の質問に曖昧な返答をすることが多く、自ら発言する姿もあまり見られなかった。そのため学習内容に関心をもち、設問に沿って粘り強く考えたり、気づきを自ら発信したりする主体的な学びに向かう姿勢を身に付けさせたいと考えた。児童の得意なことを取り入れ、取り組みやすくしたワークシート、児童の発言や思考を引き出す教材や教師の働き掛けの工夫などの授業改善を行った。その結果、学習内容に沿った発言内容が聞かれるようになったり、設問に沿って粘り強く考えたりする姿が見られるようになった。

本提案では、上記した授業改善のプロセスと児童の変容について報告したい。

－ 第3分科会 －

【3-A】

学校名	鹿児島県立鹿児島南特別支援学校	
所属（学部等）	小学部	
役職名等	教諭（自立活動指導係）	
提案者ふりがな	いいもり ひさし	
提案者氏名	飯森 仁	

1 発表タイトル

**自立活動に関わる専門性の向上と連携のあり方を探る
～一人一人の実践力を高めるための新しい取組～**

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
自立活動	全	全	肢体不自由課程、知的障害課程 重複障害課程、訪問教育課程

3 提案（発表）内容の概要

本校は、前身の桜丘養護学校が移転し、開校4年目を迎えた新しい学校である。初年度の令和5年度は342人（75学級）の児童生徒数でスタートし、今年度は457人（94学級）が在籍する県内最大の特別支援学校となった。児童生徒数の増加に併せて職員数も増加し（令和5年度170人→令和8年度205人）、特別支援学校・特別支援教育の経験が浅い職員も多く勤務している。その中には、自立活動の内容理解や授業実践に不安や悩みを抱えている者もいる。

本校では、これまでも専門性や実践力の向上を図るため、様々な外部機関（専門職）と連携したり、研修の設定や情報発信などを行ったりしてきた。これらは、専門的な知識の習得と授業への汎化に生かされてはいるものの、一部の職員に限定されたものとなっている。

そこで、今年度、自立活動部として新たな取組を試みることにした。より多くのニーズに応えていくことを目標に、可能な限り主体的な学びの場となるように配慮した。

今回は、本校自立活動部の新しい取組について紹介し、たくさんの意見や情報を交換したい。

【3-B】

学校名	熊本県立苓北支援学校	
所属（学部等）	小学部	
役職名等	教諭	
提案者ふりがな	やまもと せいか	
提案者氏名	山本 聖華	

1 発表タイトル

各教科等へつながら自立活動の指導

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
自立活動	小学部	1年生	自立活動を主とした教育課程

3 提案（発表）内容の概要

自立活動の指導は、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている。そのため、自立活動の目標設定に向けた実態把握においては、教科の視点を踏まえた上で、自立活動の6区分から実態を捉えることが重要であると考えた。

まず、教科の視点から実態を捉えるために「実態把握ツール」を参考にして、国語と算数の目標を設定し、その目標を達成するためにどのような力を育むことが必要かを検討した。この育むべき力を踏まえながら、児童の実態を自立活動の6区分から捉え、課題関連図の作成を通して中心課題を導き出した。この中心課題を改善していくことが、国語と算数の「学びの土台」の形成につながることを確認し、自立活動については、「姿勢、身体の動き」と「コミュニケーション」に関する目標を設定して指導に取り組んだ。

その結果、自立活動の指導で育んでいる力を国語や算数をはじめとする各教科等の学びへ生かすことができつつある。

本提案では、教科の視点と関連付けた実態把握および目標設定を通して、自立活動の指導で育まれる「学びの土台」が各教科等の学びを深めていく過程について報告する。

－ 第4分科会（その1） －

【4-A】

学校名	沖縄県立那覇特別支援学校	
所属（学部等）	小学部	
役職名等	教諭	
提案者ふりがな	きんじょう あつし	
提案者氏名	金城 厚	

1 発表タイトル

重度重複障害のある生徒の可能性を広げる試み ～外部専門家(e-AT コーディネーター)との連携による視線入力装置の活用を通して～

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
自立活動	高等部	3 学年	訪問教育 知的代替の教育課程

3 提案（発表）内容の概要

訪問教育対象の生徒Aは、自発的な動きがほとんどなく、教師からのかかわりに対する一貫した明確な反応を見取ることが難しい状況で、かかわる際の手がかりがつかみにくいという課題があった。そこで、唯一見られる視線の動きに注目し、かかわる際の手がかりになればという思いから外部専門家(e-AT コーディネーター)と連携しながら視線入力装置の活用を試みた。

本提案では、視線入力装置活用にかかる取組のビデオ記録による実態把握から見えてきた事とその取組を通しての教師の意識変化について報告したい。

－ 第4分科会（その2） －

【4-B】

学校名	大分県立別府支援学校	
所属（学部等）	高等部	
役職名等	教諭	
提案者ふりがな	さとう きょうこ	
提案者氏名	佐藤 響子	

1 発表タイトル

一人一人の「できる」を広げる ICT 活用
～主体的な学びを支え、自立と社会参加につなげる実践～

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
生活科	小学部	4年	知的障がい特別支援学校の教育に準じ、主として「自立活動」に重点をおく課程
生活単元学習	中学部	1年	知的障がい特別支援学校の教育に準じ、「各教科」を中心に行う課程
自立活動・音楽科	中学部	1年	知的障がい特別支援学校の教育に準じ、主として「自立活動」に重点をおく課程
自立活動	高等部	3年	高等学校に準ずる教育課程

3 提案（発表）内容の概要

本校では、一人一人の実態に応じて ICT や支援機器を活用し、「できる」を広げる授業づくりに取り組んでいる。小学部では、自分から活動に関わることが難しい児童に対し、ボタンスイッチやタブレット型端末を使った学習を行った。自分の操作で映像や音が変わる経験を積み重ねることで、興味をもって自分から活動に取り組む姿が見られるようになった。中学部では、重度重複障害のため、自分の思いを伝える機会が少ない生徒に対し、一人一人の体の動きに合わせたスイッチやプレゼンテーションアプリ教材を活用した。その結果、自分からスイッチを操作したり、教師とのやり取りを楽しんだりする姿が増え、意思の表れを周囲と共有できるようになった。高等部では、卒業後の就労や社会参加に向けて ICT を活用する力を育てるため、タイピング学習や情報処理検定に取り組んだ。その結果、ICT の技能だけでなく、自信や進路に向かう意欲も高まった。これらの実践を通して、ICT や支援機器は、一人一人の可能性を引き出し、主体的な学びを支えるとともに、自立と社会参加につながる有効な手立てであることを報告したい。

－ 第5分科会 －

【5-A】

学校名	福岡県立柳河特別支援学校	
所属（学部等）	中学部	高等部
役職名等	教諭（進路指導主事）	教諭（学部主事）
提案者ふりがな	こが もとき	さとう しんすけ
提案者氏名	古賀 基樹	佐藤 信介

1 発表タイトル

「一人一人の『できる!』を増やす」を目指した本校のキャリア教育の取組について
～学校グランドデザインと関連付けたキャリア教育全体計画・実践例示集の作成を通して～

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
新様式のキャリア・パスポートの実践	高等部	3年	重複学級

3 提案（発表）内容の概要

本校のキャリア教育については、以前進路課でキャリア教育全体計画及び本校独自資料を作成したが、学校全体での活用には至らなかった。また、キャリア・パスポートについても、当初より各部門、各学部でそれぞれの児童生徒に応じて工夫しながら取り組みを進めてきたが、学部や学級によって活用状況に差があり、学期末や年度末に学級通信を挟むだけの学級もある。

そこで、学校全体でキャリア教育を進めるために、主に以下の3点に取り組んだ。

1点は、キャリア教育全体計画・実践例示集の作成及び改善である。具体的には、学校グランドデザインで示す本校の目指す幼児児童生徒像で大切にしている、「見つめる」「伝える」「参加する」の3つの柱と、これまで本校がキャリア教育で蓄積してきたもの（キャリア教育に関する資料及びキャリア・パスポートの取組）とを関連付けた。

2点は、学校グランドデザインと関連付けたキャリア・パスポートの様式の改善及び新様式のキャリア・パスポートの実践である。

3点は、キャリア教育やキャリア・パスポートに関する職員研修の実施である。

本提案では、以上の取組について報告したい。

【5-B】

学校名	鹿児島県立出水特別支援学校	
所属（学部等）	高等部	
役職名等	教諭（進路指導主任）	
提案者ふりがな	かわそえ としひこ	
提案者氏名	川添 敏彦	

1 発表タイトル

ICT 等を活用した、多面的な進路指導について
～ワムネットの活用～

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型
総合的な探求の時間	高等部	2年生	知的代替課程

3 提案（発表）内容の概要

Aさんは、高等部2年生の重複障害学級に所属している。療育手帳 B2 を持ち、脳性麻痺による両下肢に障害があり、装具を使い歩行している。また、視力が弱く、眼鏡をしても文字が読みづらい。進路については、仕事をして一人暮らしをしたいという考えをもっている。しかし、経験が乏しく、自信のなさから、基本的に受け身の姿勢が強い。

そこで、進路に関して、自分から主体的に取り組み自己決定の機会を多くもつことで、積極的に進路学習を進める仕組みを味わう活動を行った。特に、タブレット端末を使うことで、見えにくさを補う合理的配慮としての機能と共に、自分の興味・関心のある福祉施設を探せる楽しさを展開した。

その結果、進路学習に対して意欲的になり、自分の障害や性格及び能力を振り返りながら、将来を見据えて、自分で現場実習先を決めることができるようになった。

本提案では、本校の様々な進路指導支援を紹介しながら、進路学習への意欲がふくらんでいくプロセスについて紹介したい。

－ 第6分科会 －

【6-A】

学校名	長崎県立諫早東特別支援学校	
所属（学部等）		
役職名等	教頭	
提案者ふりがな	やまもと まさかず	
提案者氏名	山本 政一	

1 発表タイトル

「転出入が多い学校におけるPTA活動の取組」～できることから始めよう～

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型

3 提案（発表）内容の概要

本校は、長崎県立こども医療福祉センターと隣接した学校で、センターにリハビリ、治療等で入院・入所してくる児童生徒の義務教育を保障する学校である。リハビリ、治療が終了した児童生徒は前籍校に戻るため、転出入者が多い反面、近年、通学生の減少に伴い一年間継続して在籍する児童生徒は、ほとんどいない。そのような状況の中、PTAについても会員が年度内で入れ替わり、コロナ禍もあったことからPTA活動自体ほとんどできていない状態だった。そこで、令和5年度より感染症に配慮しながらではあるが、少しずつ、できるところから始めていこうということで、PTA役員会にて話し合い、保護者と教職員が互いに協力し合いながら活動を始めた。

本提案では、本校PTAが実施している「学校環境整備」「親子ふれあい活動」「進路研修会」「地域とのつながり」の大きく四つの活動について、課題は多々あるが、転出入者が多い学校におけるPTA活動の取組として報告したい。

【6-B】

学校名	鹿児島県立鹿児島特別支援学校	
所属（学部等）		
役職名等	PTA 会長	
提案者ふりがな	おがわ ひろみ	
提案者氏名	小川 裕美	

1 発表タイトル

「時代に合わせた PTA 活動の取組」

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型

3 提案（発表）内容の概要

本校は、鹿児島県鹿児島市にある創立61年目となる知肢併置の特別支援学校である。年々、児童生徒数が増え、PTA世帯数が400を超える中、組織や活動内容を少しずつ見直ししながらPTA活動に取り組んでいる。

今回の発表では、主なPTA活動の中から鹿児島市と提携している福祉こども避難所について学んでいる「防災研修」や保健体育部が年2回実施し、食に関する研修をしたり、様々な形態の給食を実際に味わったりしている「給食試食会」、実施方法を見直しながら長年にわたって取り組んでいる「PTA夏祭り」などの詳細について紹介する。

学校の規模が大きくなり、共働き世帯も増え、コロナ禍を経て様々な考え方がある中で、PTA活動が子供たちにとっても保護者にとっても有意義なものであり、持続可能なものとなるような在り方について本研究大会参加者とともに考える機会としたい。

－ 第7分科会 －

【7-A】

学校名	大分県立別府支援学校	
所属（学部等）	寄宿舎	
役職名等	主任寄宿舎指導員	
提案者ふりがな	たしま まこと	
提案者氏名	田島 誠	

1 発表タイトル

夢に近づく寄宿舎生活

2 実践の対象とした児童生徒（第1～第5分科会のみ）

実践の教科・領域等	学部	学年	教育課程の類型

3 提案（発表）内容の概要

本実践は、寄宿舎個別の生活指導計画に基づき、一人の寄宿舎生の「本人の願い」を支援の出発点とし、主体的な取組を通して夢の実現を目指した教育実践について報告するものである。対象生徒は、「安定した歩行ができるようになりたい」「歩行中に立ち止まり立位を保持できるようになりたい」という願いをもち、理学療法士（PT）の助言を取り入れながら歩行練習や下肢機能向上のトレーニングに継続して取り組んだ。支援に当たっては、職員が一方的に促すのではなく、本人が自ら取り組む回数を決め、達成状況をシールで可視化するとともに、動画による動作確認を取り入れることで、自ら課題や変化を実感できるよう工夫した。その結果、歩行姿勢や立位保持などの身体機能だけでなく、主体性や自己肯定感の向上も見られた。さらに、本人との対話を通して支援目標の背景に「将来は飲食店で働きたい」という夢があることを共有し、トレーニングを夢の実現と結び付けて支援を再構成したことで、意欲的に挑戦し続ける姿へとつながった。本実践を通して、寄宿舎教育においては、本人の願いとその背景にある思いを丁寧に捉え、主体的な取組を支える支援が、将来の自立と社会参加につながることにについて報告する。

ポスター発表内容の要旨

<発表区分> A キャリア教育・進路指導		<発表番号> A-I
<テーマ> 「自分らしい未来」へつなぐ進路指導 ～一人ひとりの障がいの状態や特性に応じた自立と社会参加を育む実践～		
福岡市立 南福岡 特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名（ふりがな）> 鳥飼 恵美（とりかい えみ） 中尾 聖（なかお しょう）
	(1)目的・概要 本校における進路指導では、生徒の能力や個性といった実態と、生徒を支える保護者のニーズをしっかりと把握した上で、適切な進路選択に向けた取組を推進している。本発表では、生徒の進路希望実現に向けて、中学部からの体系的な進路学習や、関係諸機関との連携、事業所との協力関係構築などの多様な取組を報告する。	
	(2)実践・考察 生徒及び保護者向けに発行する「進路の手引き」を適宜見直し、進路説明会や事業所見学など、進路選択に関する情報収集の機会を増やしている。生徒の進路希望実現に向けては、障がい者基幹相談支援センター等の関係機関との連携を進めた。また、進学希望の生徒については、入試や入学後の支援に関する大学との協議を積み重ねてきた。 学校における進路学習としては、現場実習だけではなく、在宅就労体験の機会や、中学部生徒を対象にした親子での事業所体験を実施し、進路意識の醸成を図ることができた。	
	(3)成果・まとめ 進路学習や進路選択に係る取組の充実を通して、生徒の進路獲得を支援する体制づくりを充実させることができています。中でも、進学を希望する生徒の入試や進学後の教育環境について大学と協議を行ったことや、関係機関との連携を強化して多様な進路選択の可能性を広げたことは、大きな成果と言える。 今後は、在宅就労支援、入所施設やグループホームの開拓、医療的ケアを必要とする生徒の進路獲得など、より個に応じた進路支援を推進していきたい。	
	<発表区分> A キャリア教育・進路指導	<発表番号> A-II
<テーマ> 社会参加・自立に向けて、 『いつでも、どこでも、だれとでも』を目指した生活する力の育成		
北九州市立 八幡西 特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名（ふりがな）> 水野 泰子（みずの やすこ）
	(1)目的・概要 病気や障害のある児童生徒の特性と能力に応じた教育を実践し、可能な限り社会参加・自立を目指し、生涯にわたって生きがいをもって生活できる進路指導の推進。	
	(2)実践・考察 ○学校紹介①4、5月進路アンケート・進路希望調査（小・中・高等学部、訪問教育部） ②キャリア教育の入り口（小学部） ③a 中学部進路指導 b 進路学習週間（中学部） ④a 前後期産業現場等における実習 b 個別の移行支援計画（高等部） ⑤キャリア教育シート作成（小・中・高等学部、訪問教育部）※昨年度からの取組 ⑥校内職員進路指導研修会（全職員対象） ⑦PTA進路指導検討部会（PTA・進路指導主事）	
北九州市立 八幡西 特別支援学校	(3)成果・まとめ 【成 果】毎年、継続して実践を行っており、小学部から高等部まで系統的に取り組むことができています。また昨年度からキャリア教育シートを作成し、より具体化しつつある。 【課 題】昨年度から取り組んでいるキャリア教育シートの様式や内容を、さらに検討し改善する必要がある。 【まとめ】日常生活の視点を踏まえたキャリア教育シートの作成が重要となる。また日々の教育課程を小学部、中学部、高等部（訪問教育部含む）を通じて系統的に教科を学ぶことが大切になる。そのことは、一人一人の将来の生き方を豊かにし、生活する力の育成となる。ゆえに今後も本校では、各学部で進路指導を継続していくことに努めていきたい。	

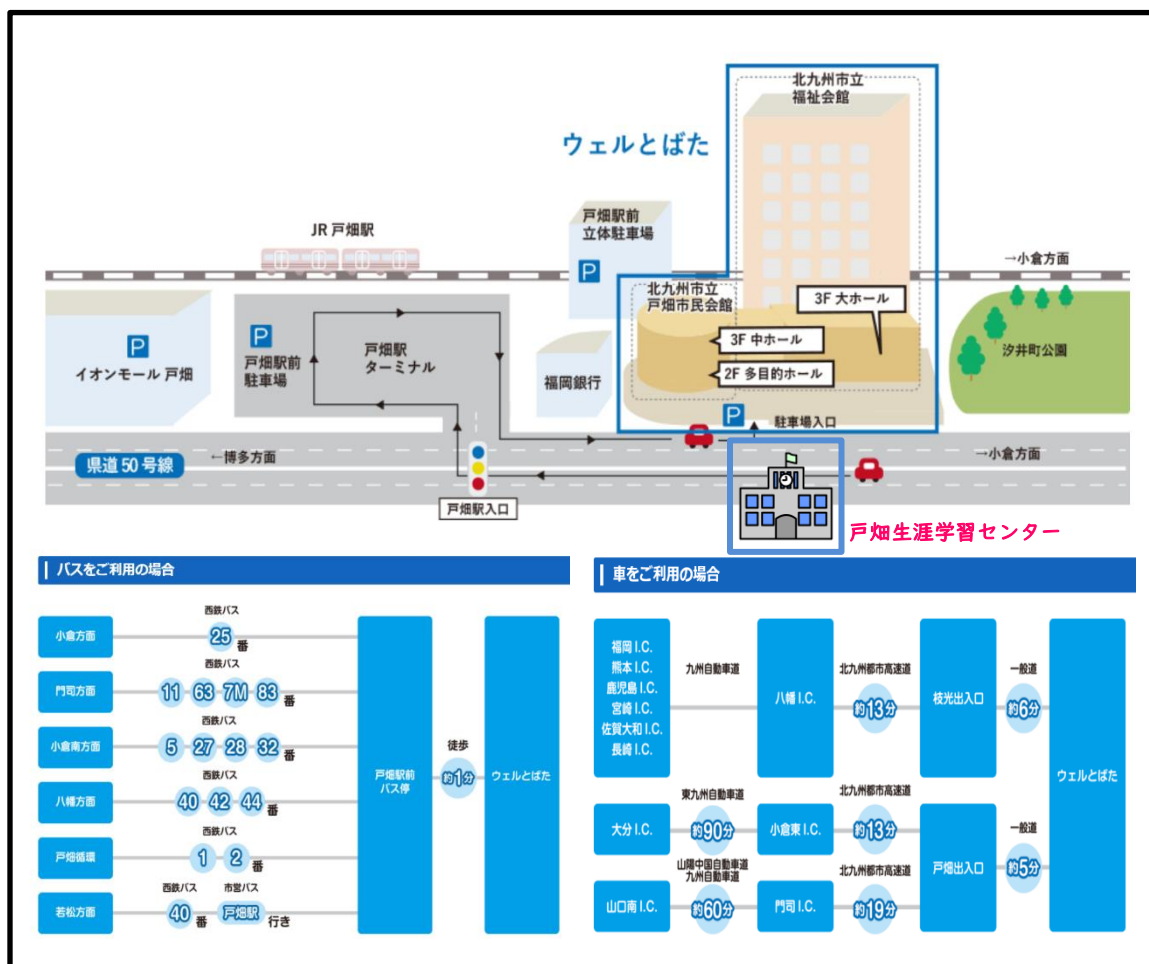
<発表区分> B 授業改善・校内研究等 (準ずる教育・知的代替)		<発表番号> B-I
<テーマ> 肢体不自由の児童・生徒の生活の質の向上をめざす身体へのアプローチ		
福岡市立今津特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名(ふりがな)> 沖島 みなみ(おきしま みなみ)
	(1)目的・概要 本研究はポジショニング、手指操作、立位・歩行の3つの観点から、児童生徒が健康で豊かに生活するために、全職員が共通の視点をもって身体の動きの実態を評価し、専門家との連携を通じて教員の専門性と実践力を高めることを目的としている。 本研究は3か年計画で、専門家の先生による基本的な理論と実技を学ぶ「全体研修」、抽出された対象児について具体的な助言を受ける「対象児研修」、グループに分かれて各クラスの児童生徒について検討する「グループ検討会」の3つで構成されている。	
	(2)実践・考察 OT・PTと連携し、身体の仕組みに基づく支援を行っていった。全体研修では、呼吸を最優先したタオル調整等の実技、移動手段の確保や筋肉の緩め方などを学んだ。対象児研修では各児童生徒を実際に見ていただく指導は実践的で日常生活に活用できた。考察としては、全職員にとって、身体への理解が教育実践を多角的に見直す契機となった。特に実技や動画を用いた研修は具体的で汎用性が高いと評価されている。	
	(3)成果・まとめ 2年間の研究を通じ、専門的な知識と技術の向上が図られたが、今後の課題として、「研修の内容をより教員の学びたい内容にし、適切な難易度の設定を行う」ことが挙げられている。令和8年度は継続して各学級で「身体のうごきのまとめ」を作成したり、実技研修を受けたりして、全教員での指導方法の共有と実践的指導の確立を目指している。	
	<発表区分> B 授業改善・校内研究等 (準ずる教育・知的代替)	<発表番号> B-II
<テーマ> 「C中生き生きリスト」を作ろう		
福岡県立直方特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名(ふりがな)> 東野 文路(とうの ふみゆき)
	(1)目的・概要 校内研究の主題にある「生き生きと学ぶための授業づくり」を実現するために、肢体不自由教育部門中学部(C中)の教師が生き生きと学ぶ子供の姿を引き出すためのチェックリストを作成した。そのチェックリストを作成するまでの過程と今後の活用の見通しについて示す。	
	(2)実践・考察 教師全員が日常の授業において、子供の姿から評価した点を付箋に書き出し、集約した。集めた付箋の内容をもとに、共通して評価されている観点を分類し、「見通し」や「自己選択」などのカテゴリーに整理した。さらに、それらのカテゴリーを意識した授業づくりを実践し、その中で講じた手立てを集約したうえで、各カテゴリーにおける子供の「生き生き」とした姿を引き出すための手立てとしてリスト化した。	
	(3)成果・まとめ カテゴリーを分類したことで、子供の姿を評価する観点がより明確になり、若年教員研修の指導案や通知表の作成の参考になったと教師の意識向上につながった。手立てをリスト化したことで、教師同士での指導・支援の仕方の共有がしやすくなった。今後は「C中生き生きリスト」を活用して単元指導計画や指導案を作成し、授業実践を行い、子供が生き生きと学ぶ授業の実現に向けて研究を進めていく。	

<発表区分> C ICT・支援機器の活用		<発表番号> C-I
<テーマ> 校内における ICT 活用推進体制の構築		
北九州市立小倉総合特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名（ふりがな）> 鬼塚 正人（おにつか まさと）
	(1)目的・概要 次期学習指導要領改訂に向けた論点整理において、障害特性に応じたアクセシビリティ機能の活用等、特別支援教育におけるデジタル学習基盤の整備は喫緊の課題とされている。本発表では、昨年度より本校に新設された「ICT 活用推進部長」の取組について報告する。校内における組織的な ICT 活用推進のプロセスを、授業支援事例やクラウドを活用した校務改善のマニュアル化等の具体策とともに提示し、今後の持続可能な ICT 活用推進体制の成果と課題を明らかにしていく。	
	(2)実践・考察 ICT 活用推進業務について、3つの視点から考察する。「①授業支援」では、令和7年度は18ケースに関わり、実態把握や教材提案を行った。進行性の障害がある生徒への機器活用事例や、観察を通じた児童の発達評価事例の中で、ICT 活用を第三者的に評価・助言する専門ポストの必要性が示唆された。「②校務改善」では、事務部や教務主任と協同してクラウド活用とマニュアル作成を進め、職員の業務効率化を図った。「③情報提供」では校内研修を系統的に実施し、職員の ICT 活用能力向上に寄与することができた。	
	(3)成果・まとめ 「ICT 活用推進部長」という専門的ポストの設置により、授業における ICT の活用、ICT を活用した校務改善、教職員の ICT 活用能力向上に大きく寄与することができた。	
<発表区分> C ICT・支援機器の活用		<発表番号> C-II
<テーマ> コミュニケーションを育てる ICT・支援機器の活用		
福岡市立南福岡特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名（ふりがな）> 宮崎 梢（みやざき こずえ）
	(1)目的・概要 本校は、児童生徒170名、教職員150名を擁する肢体不自由単独特別支援学校である。福岡市では最長6年で人事異動が行われるため、近年は年間約3割の教職員が異動しており、初任者や肢体不自由教育未経験の若手層が急増している。これに伴い専門性の維持が課題となる一方、働き方改革による校内研修の精選やOJTの減少により、若手教員が専門的なスキルを習得する機会の不足が深刻化していた。特に、児童生徒の発達や身体状況に応じた ICT・支援機器の適切な活用において、指導力の底上げが強く求められている。従来は、特定の詳しい教員が異動すると、どれほど児童生徒にとって有効な活用であっても継続されなくなるという課題があった。	
	(2)実践・考察 そこで、教員の「機械は苦手だから使えない」という意識を、「子どもに使わせてみたい」「自分でセッティングできるようになりたい」へと段階的に変化させる研修を組み立てた。担任に寄り添いながら、子どもの「できた」という姿を共に喜び合う時間を創出することで、専門知識を持つ教員が不在であっても、子どもに必要な支援機器や教材を、担任が替わっても継続して活用できる環境づくりを行った。	
	(3)成果・まとめ 取り組みの初期は、活用されていない支援機器が多く、児童生徒の使用機会も限られていた。特に機器操作に対する苦手意識が強い教員が多く、積極的な活用に至りにくい状況があった。導入からの1～2か月間は担任と二人三脚で取り組み、子どもの「できた」を共有しながら、担任が単独で運用できるよう児童生徒や教員の実態に合わせた環境整備を行った。その結果、現在では専門の教員が介在しなくても担任同士で引き継ぎを行い、よりよい指導方法を自発的に模索・実践できるようになっている。	

<発表区分> D 災害対応		<発表番号> D-I
<テーマ> 本校における生活安全指導の取組		
北九州市立 八幡西 特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名（ふりがな）> 本田 孝太（ほんだ こうた）
	(1)目的・概要 ・児童生徒及び職員の安全への意識や、安全を守る力を高める。 ・災害時の安全を確保する方策を立てる。	
	(2)実践・考察 ①火災を想定した避難訓練（教職員・児童生徒） ②救急救命法講習会（教職員） ③地震による火災を想定したシェイクアウト訓練と避難訓練（教職員・児童生徒） ④その他 ・防災リュック保管 ・PTAによる非常食等の備蓄 ・月1回の安全点検（職員1人につき1教室火元取締役責任者に指名）	
	(3)成果・まとめ 【成果】実践と反省を繰り返し取り組むことで、職員の入れ替わりや生徒の実態の変化等に対応している。 【課題】障害の程度が重度である児童生徒、医療的ケアが必要な児童生徒に対して、いかに迅速に正しい行動を取ることができかが常に求められている。 【発表内容】本校の実情を踏まえた上記の取組について報告したい。	
<発表区分> D 災害対応		<発表番号> D-II
<テーマ> 防災安全係の実践報告		
福岡市立 今津 特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名（ふりがな）> 碓 朋実（いかり ともみ） 須藤 雪絵（すどう ゆきえ）
	(1)目的・概要 本実践は、防災安全に関する研修や訓練、学習を推進し、学校の防災機能を高めることで、安全・安心な学校環境をつくることを目的としている。 防災安全に関する主な活動には、児童生徒と教員を対象とした地震火災避難訓練・地震津波避難訓練、教員のみを対象とした不審者対応研修・防災シミュレーション研修、福岡市の防災週間に合わせて設定された防災週間があげられる。	
	(2)実践・考察 児童生徒の実態を踏まえながら、災害時の様々な場面を想定して実践を行った。特に、地震津波避難訓練では、各児童生徒に応じた垂直避難の移動方法について事前に教員間で確認し、様々な移動手段を用いて避難をした。また、防災シミュレーション研修では、自主防災組織図によって配属された各班に分かれ、事前に業務内容を確認し、災害時を見据えながら各班で活動した。災害時を想定して実践的な活動を行うことが、児童生徒や職員の防災への意識を高めることにつながっている。	
	(3)成果・まとめ 研修や訓練等により、学校の防災機能の向上が図られてきた。しかし、防災シミュレーション研修では、他の班の業務内容についての理解が深められていないことなどが反省として挙げられている。今後は、職員が災害時の学校全体の組織の動きを把握できるように、他の班の業務内容の共有にも努め、学校全体の防災機能のさらなる向上を目指していく。	

<発表区分> E 自立活動		<発表番号> E-I
<テーマ> 自立活動における身体の動きの実態把握について ー小学部1年生の指導を通してー		
福岡県立直方特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名(ふりがな)> 藤田 真衣(ふじた まい)
	(1)目的・概要 学校研究に取り組む中で、肢体不自由教育部門小学部(C小)の職員の多くが「自立活動の指導において、実態把握や指導内容の設定が難しい」と感じていた。そのため、学部 の職員研修で、理論研修や指導内容設定シートについての研修を設けた。それらを活用 し、学校研究で取り組んだ身体の動きの実態把握に焦点を当てた、実践報告について、関 連付けて実施した職員研修の内容と併せて示す。	
	(2)実践・考察 自立活動チェックリストを活用し、複数の職員で実態を確認したり、課題関連図を作成 したりすることで、より適切な実態把握に努めた。そこから中心課題を抽出し、短期目標 や長期目標の計画を立て、段階的な課題を設定することで指導に見通しをもつことができ た。その中で、有効だった手立ての「記録の取り方」や「指導内容」を学部の職員間で共 有した。	
	(3)成果・まとめ 学部職員の専門性の向上を目的とする研修を設けたり、実践報告や成果を共有したりす ることで、職員は少しずつ実態把握や指導内容の設定への理解が深まってきた。身体の動 きの学習では、写真や動画等で記録を残し、実態把握や指導内容の設定に活用するといっ た取組が学部内で行われている。	
<発表区分> E 自立活動		<発表番号> E-II
<テーマ> 自立活動の指導計画作成を通した一考察 ～なぜその指導をするのか～		
北九州市立小倉総合特別支援学校	<職種> 教諭	<氏名(ふりがな)> 村田 夏樹(むらた なつき)
	(1)目的・概要 本実践は、指導の根拠を明確にすることを目的に行った。肢体不自由・知的障害のある 児童(小学部4～6年生)に対するR5～7年の実践である。当初、自立活動中心の教育 課程における指導に自信がもてず、前年度の取組を踏襲するにとどまっていた。そこで、 「個別の指導計画」の作成と修正を繰り返しながら、実態把握に基づいた指導のあり方 について考察を行った。	
	(2)実践・考察 最初は前年度の計画を基に目標を設定したが、設定した目標が児童の実態と合っていな いのではという疑問が残った。そこで、自立活動の6区分に即した実態把握から得られた 課題同士の関連を整理する「課題関連図」を作成し、指導に臨んだ。ファシリテーション ボールでの揺れの刺激や、iPad等を用いたコミュニケーション面の指導を実施した。そ の結果、一定の成果が見られたが、中心課題が多すぎることや評価の根拠に課題を感じる 結果となった。その後、実態把握をやり直し、不足している感覚刺激を補うためにラン ポリンでの揺れを増やしたり、写真による活動選択の場面を増やしたりした。これらの実 践を通して、指導に根拠をもって取り組むことができるようになった。	
	(3)成果・まとめ 児童は、好きな活動で声を出し笑う、大勢の前で「もういっかい」と要求を伝えるなど といった、主体的な成長が見られた。教師は「個別の指導計画」を作成し、仮説検証を繰 り返すことで、自信をもって根拠のある指導ができるようになった。この経験を生かして 「根拠をもって取り組む大切さ」を校内で伝えていきたいと考える。	

大会会場 北九州市ウェルとばた 戸畑生涯学習センター (大会1日目・2日目) ご案内

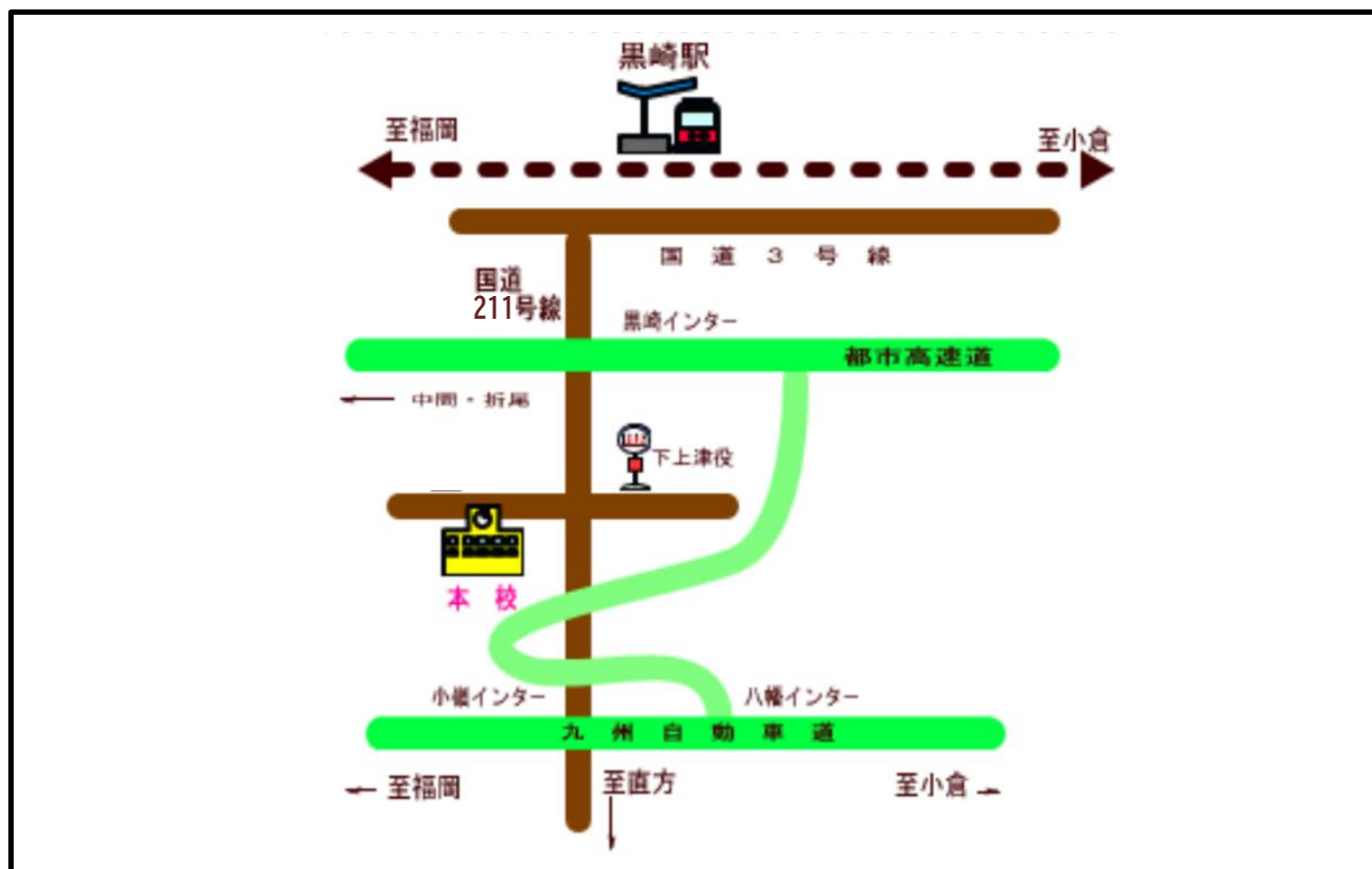


	北九州市ウェルとばた	戸畑生涯学習センター
住所	〒804-0067 福岡県北九州市戸畑区汐井町1番6号	〒804-0061 福岡県北九州市戸畑区中本町7番20号
電話番号	093-871-7200	093-882-4281
交通アクセス		
JR利用	JR戸畑駅(鹿児島本線)南口 → ウェルとばた:徒歩約1分 戸畑生涯学習センター:徒歩約3分	
バス利用	戸畑駅前バス停 → 徒歩約1分	
航空機利用	福岡空港より約80分(地下鉄空港線福岡空港駅→JR 博多駅→JR 戸畑駅→徒歩) 北九州空港より約80分(エアポートバス→JR 黒崎駅→JR 戸畑駅→徒歩)	
自家用車利用	九州都市高速「枝光出入口」より約6分。「戸畑出入口」より約5分。 九州自動車道「八幡IC」より約30～55分 東九州道「小倉東IC」より約30～55分※朝は混雑が予想されます。 ウェルとばた駐車場120台 ※大型バス・マイクロバス・自動二輪車の駐車場はありません。 その他、近隣に有料駐車場多数有り	

学校公開 北九州市立八幡西特別支援学校

(大会3日目)

ご案内



《住所》

〒807-0075 北九州市八幡西区下上津役四丁目8番2号

《黒崎駅・小倉駅から八幡西特別支援学校まで》

- ・西鉄バスご利用の方は、西鉄黒崎バスセンター7番乗り場より乗車してください。

「53イオンモール直方行」「急行直方行」に乗車⇒

「下上津役バス停」で下車⇒バス停より徒歩約5分

- ・タクシーご利用の場合、黒崎駅より約20分です。朝は混雑が予想されます。

《お願い》

駐車場に限りがあります。県外の方は、送迎バスのご利用をお願いする予定です。県内の方で
お車ご利用の場合は、なるべくお乗り合わせてご来校いただくようご協力ください。